

平成 23 年 10 月 11 日

私立大学図書館協会
国際図書館協力委員会
委員長 長島 敏樹 様

立正大学情報メディアセンター
田中 麻巳

2011 年度 私立大学図書館協会 海外認定研修報告書

- I はじめに
- II ブルネイ概要
- III 訪問見学概要
- IV ブルネイ・ダルサラーム大学図書館
- V ブルネイ工科大学図書館
- VI 総括

I はじめに

今夏、遂に念願だったブルネイへの旅行が実現し、その機会を利用して図書館の訪問見学を行った。石油と天然ガスにあふれ、世界で最も裕福な国といわれるブルネイにはかねてから興味があった。しかし、ブルネイについて日本で入手できる情報は同じアジア圏にもかかわらず極めて少ない。学術文献はさることながら、ガイドブックでさえも数ページ、それもマレーシアの本におまけのように掲載されているだけなのである。当然ブルネイの図書館に関するまとまった情報などなく、ぜひ自分の目でそのサービス内容や実情を確かめたいと思うようになったのが、今回の訪問見学に至ったきっかけである。

II ブルネイ概要

A. ブルネイとは¹⁾²⁾

ブルネイ・ダルサラーム国、通称ブルネイは、ボルネオ島の北西部に位置するイスラム教国である。人口は約 41 万人、国土は三重県ほどと小さいものの、ASEAN の一員で、石油や天然ガスといった豊かな天然資源に恵まれている。公用語はマレー語だが、英語も広く通じる。1984 年にイギリスから独立して以来、国王による統治と天然資源がもたらした高い経済成長によって安定した内政を維持してきた。医療費や教育費は無料、所得税はなく、給与水準は東南アジアトップと国民の生活水準も高い。日本にとってもブルネイは重要なエネルギー供給国であり、技術協力、教育、文化の面でも交流が行われている。

B. ブルネイにおける高等教育制度

1985 年 10 月、国王によってブルネイ唯一の大学(学士課程のある機関)、王立ブルネイ・ダルサラーム大学(University of Brunei Darussalam, 以下 UBD)が創設された。バイリンガル教育に力を入れており、一部の科目を除く大半の授業が英語で行われている³⁾。1991 年には修士課程プログラムが、2000 年には博士課程プログラムが開始された。1986 年には、工学・情報技術・情報産業の分野で活躍する専門家や技術者育成を目指すブルネイ工科大

学 (Institute of Technology Brunei, 以下 ITB) が設立されたが、準学士号 (高等教育ディプロマ, Higher National Diploma) プログラムしかなく、多くの学生は海外留学をすることでしか、学士号、修士号の学位を取得することができなかった。

しかし 2007 年に転機が訪れる。ブルネイ国家発展計画である「ブルネイ 2035」において、教育分野の発展が事業計画の 1 つとして重要視されたのだ。これに伴い、2007 年 1 月、ブルネイ第 2 の大学として、UBD からイスラム宗教・文化学院を移転させ、イスラム・スルタン・シャリフ・アリ大学 (University of Islam Sultan Sharif Ali, 以下 UNISSA) が設立され、イスラム関係の教育を行う学士、修士、博士課程プログラムが開講された。続いて、ITB は既存の準学士号レベルの教育プログラムを維持しながら、2009 年 8 月に UBD の工学部移転と同時に、正規の工科大学として学士、修士、博士課程を開設した。こうして教育省の傘下に王立ブルネイ・ダルサラーム大学 (UBD)、ブルネイ工科大学 (ITB)、イスラム・スルタン・シャリフ・アリ大学 (UNISSA) の 3 大学が学士課程以上を持つ高等教育機関として設置され、ブルネイにおける高等教育制度が確立した⁴⁾。

C. ブルネイにおける図書館情報学教育⁵⁾

ブルネイでは、いまだ図書館情報学分野の教育を提供する体制が整っていない。それらの教育を得るためには、イギリスやオーストラリアへ留学をすることが必要なのである。そのため、ブルネイの全ての学校、ほぼ全ての省庁に図書館や図書室があるものの、留学をし、図書館学の知識を得た図書館員が配置されているのは、ブルネイ・ダルサラーム大学図書館、ブルネイ工科大学図書館といったいくつかの図書館に限られている。

III 訪問見学概要

マレーシア経由でブルネイに入国し、2011 年 8 月 15 日から 17 日まで滞在した。訪問先は開館日・開館時間等の都合上、教育省のもとにある 3 大学のうち UBD と ITB の図書館に絞り、両者とも 8 月 16 日に見学を行った。学生時代からの友人である、名古屋大学図書館の神谷知子氏と共に訪問した。UBD の図書館では、主に情報リテラシー教育プログラムを企画・実施している Merhane Mohamed Salleh 氏が、ITB の図書館では 図書館業務・運営の統括を行っている Library Officer の Hajah Pusparaini binti Haji Thani 氏と補佐役 Assistant Library Officer の Haji Abdul Hafidz bin Haji Ali Hassan 氏が、大変親切で丁寧なご説明とご案内をしてくださった。

IV ブルネイ・ダルサラーム大学図書館

A. 図書館概要

ブルネイ・ダルサラーム大学図書館 (以下 UBD 図書館) は国内で中核を成す、最も近代的かつ先進的な図書館として⁵⁾、大学に所属する学生や教員のみならず、企業や一般市民にも門戸を開放している。図書館員数は約 60 名、そのうち図書館学の専門的知識を持っている者は 18 名ということだった。蔵書数は約 50 万冊、データベースや電子ジャーナルの提供も積極的に行っているほか、ブルネイ関連の資料電子化にも力を注いでいる。

B. 建物・設備⁶⁾⁷⁾

図書館の外観はまばゆいほど白くて美しく、引き込まれるように中へ入った (図 1)。



図 1 UBD 図書館外観

外国人の私たちも入口で帳簿に名前、国籍を記入し、訪問者カードを受け取ることで難なく入館できた。ただし入館のためのドレスコードがあり、短パンやノースリーブといった服装をしている場合は、たとえ所属学生であっても入館をお断りするという事だった。

UBD 図書館内の主要設備をフロアごとに表 1 にまとめた。

表 1 UBD 図書館 各階の主要設備

Ground Floor	Security counter, Reference collection, Lending services desk, ILL desk, Reference services desk, Computer laboratory, E-resource room, Prayer rooms
First Floor	General collection, Newspapers, Curriculum resources Group discussion rooms, Individual study rooms
Second Floor	General collection, Serial collection Multimedia collection, United Nations Collection Group discussion rooms, E-resource room
Third Floor	Brunei studies collection, Brunei studies collection desk, ISBN services desk, Media viewing rooms

入口階である Ground Floor には、入ってすぐにセキュリティカウンター (Security counter) がある。ここでドレスコードのチェックがあり、学生は学生証を見せ、外部からの訪問者は訪問者カードを受け取って入館する。レファレンス資料 (Reference collection)、

貸出・返却カウンター (Lending services desk)、ILL 手続きを行うカウンター (ILL desk)、レファレンスカウンター (Reference services desk) があるのもこの階である。手続きを急ぐ利用者のために自動貸出・返却装置も設置されていた。パソコンを備えた実習室 (Computer laboratory) では、図書館員による情報リテラシー講習会が行われる。訪問した当日も、図書館員の方による「図書館活用術」の講義が行われていた (図 2)。インターネットやマイクロソフトプログラム、データベース等にアクセスできるパソコン約 10 台を備えた E-resource room もある。その他、礼拝用の部屋 (Prayer rooms) が男性用と女性用、あわせて 2 部屋あり、ブルネイがイスラム教国であることを改めて実感した。



図 2 Computer laboratory での講習会の様子

1 階 (First floor) には貸出が可能な図書 (General collection) や新聞 (Newspapers) のほか、Curriculum resources と呼ばれる特定科目の学習過程や講義に必要な資料を取りそろえたコーナーがある。また、4 名まで入ることができるグループディスカッションルーム (Group discussion rooms) が 5 部屋と 1 人で集中して勉強したい利用者のための個人勉強部屋 (Individual study rooms) が 2 部屋あった。

2 階 (Second floor) には図書と雑誌 (Serial collection)、マイクロフィッシュ、ビデオ、CD、DVD 等のマルチメディア資料 (Multimedia collection) が配架されていた。また、UBD 図書館はブルネイにおける国際連合寄託図書館としての役割をも担っているということで、国連会議報告や国連が発行した資料をまとめたコーナー (United Nations Collection) もあった (図 3)。無償で国連の資料が寄贈される代わりに、国連の活動を広く周知するために利用者への資料の公開が義務付けられているという。その他、最大 6 名まで利用可能なグループディスカッションルームが 2 部屋と 30 台ほどのパソコンを完備した E-resource room もあった。



図 3 国連関係資料 (United Nations Collection)

3階(Third Floor)にはブルネイ関係の資料を集めたコーナー(Brunei studies collection)と、これらの資料の利用相談に乗るカウンター(Brunei studies collection desk)があった。ISBN services desk は、UBD の出版物に割り当てる ISBN への要求について調整を行ったり、ブルネイ ISBN センターと連絡を取り合ったりしているカウンターだということだった。その他、マルチメディア資料を利用・閲覧する部屋(Media viewing rooms)もこの階にあった。「e-Click」という名の UBD 図書館 OPAC 検索端末はすべてのフロアにあった。

書架の乱れや館内の騒々しさはなく、全体的に非常に秩序立っている印象を受けた。秩序が保たれつつも、利用は活発で、学生がひっきりなしにカウンターを訪れる姿や OPAC で真剣に資料を探す姿が見受けられた。

C. 分類と請求記号

UBD 図書館では、米国議会図書館分類法(LCC)を使用して図書の分類を行っている。これをもとに請求記号を付与しているほか、一般的な図書資料(General collection)以外の資料には独自のコレクションコードもあわせて付与していた。主要なものを表 2 にまとめた。

表 2 コレクションコード対応表

Ruj	レファレンス資料	KHad	利用制限がある資料
Sir	逐次刊行物、抄録、索引	KNad	貴重書
KBru	ブルネイ関連資料	Suk	特定科目に必要な資料
KUbd	教員、学生による出版物	Kkr	児童向き図書
KTes	修士・博士論文	Med	マルチメディア資料、視聴覚資料

レファレンス資料には「Ruj」、逐次刊行物、抄録、索引には「Sir」が、また、ブルネイ関係の資料には「KBru」、UBDの教員、学生によって書かれた出版物には「KUbd」、UBDのみならずブルネイ人によって書かれた修士・博士論文には「K Tes」が付与されていた。**Restricted collection** という利用が制限されている資料には「KHad」のコードが付与されていた。ここには主に、イスラム教以外の宗教について書かれている資料が属す。これらの資料は鍵のかかったガラスケースに入れられ、調査、研究目的以外での自由な利用は認めていない、ということだった(図4)。その他、貴重書には「KNad」、特定科目に必要な資料には「Suk」、児童向き図書には「Kkr」、マルチメディア資料・視聴覚資料には「Med」が付与されていた。コレクションコードを付与することによって、それぞれの資料がどのような種類のものかどのコーナーに属するものであるのかを即座に判別できるので大変便利だということだった。



図4 利用が制限されている資料 (Restricted collection)

D. Brunei Studies Collection

UBD 図書館において、最も特徴的なコレクションといえば、ブルネイについて書かれている資料、ブルネイ人が書いた資料、ブルネイで出版された資料等を集めた **Brunei Studies Collection** であろう。以下 11 の詳細なカテゴリー (コレクションコード) に分類され、3階のコーナーに配架されている。

- ①ブルネイについて書かれている資料 (KBru)
- ②ボルネオ島について書かれている資料 (KBor)
- ③ブルネイで出版された、もしくはブルネイに関連のある逐次刊行物 (KBrus)
- ④ブルネイがテーマのマルチメディア資料 (KBruVd, KBruCd, KBruAc)

- ⑤ブルネイで発刊された、もしくはブルネイに関連のある新聞
- ⑥写本 (KMan)
- ⑦UBD の過去の試験問題
- ⑧ブルネイの著名人による寄贈図書 (KSP)
- ⑨1950 年代以前のブルネイ関連資料 (貴重書) (KNad)
- ⑩ブルネイの学術機関に属する学生による修士・博士論文 (KTes)
- ⑪UBD の出版物 (KUbd)

①には図書の他、講演会や会議資料、報告書も含まれている。③の具体的なタイトルとして『Brunei Museum Journal』、『Behama』、『Mekar』、『Brunei Statistical Yearbook』が、⑤では『Borneo Bulletin』、『Media Permata』、『Borneo Post』、『The Brunei Times』、『Pelita Brunei』が挙げられる。⑥の写本は、湿度を一定に保つことができる容器の中に入れられた状態で配架されていた (図 5)。これらのうち最も古いのは、1700 年代の写本だということであった。



図 5 湿度を管理する容器に入れられている写本

E. 電子図書館サービス⁸⁾

UBD 図書館では、「DiLibrary」という名のポータルサイト内にて電子図書館サービスを提供している。図書館のホームページ上で ID とパスワードを入力することで、ログインができる。ID とパスワードが付与されるのは、UBD 所属の教職員・学生と一定の金額を支払い図書館会員となった外部利用者である。サイト内では多様な電子情報源にアクセスできるほか、電子化されたブルネイ関連資料や国連関連資料の閲覧、過去の検索履歴の蓄積、貸出期間延長処理、興味のあるテーマに関する新着図書情報の受け取り、チャットによる

図書館員へのレファレンス質問等が可能である。インターネットに接続できる環境があれば、24時間いつでもどこからでもこれらサービスの利用ができる。

サイト内で提供されている情報源は E-book、オンラインデータベース・電子ジャーナル、電子レファレンス資料、と主に3つの種類に分類される。UBD 図書館が提供している、具体的な情報源名を種類別に表3に示した。

表3 DiLibrary 内で提供されている電子情報源

E-book	<ul style="list-style-type: none"> • ebrary
オンラインデータベース・ 電子ジャーナル	<ul style="list-style-type: none"> • Bibliography of Asian Studies • EBSCO host • EconLit • Emerald • Gale Databases • Institute of Physic Databases • Institute of Southeast Asian Studies • JSTOR • Kids InfoBits • MathSciNet • McGraw-Hill's AccessScience • Ovid • Oxford University Press database • ProQuest K12 • ProQuest • SAGE Journals Online • Science Direct • SciFinder • SwetsWise • Society for Industrial and Applied mathematics • Springer Link • Wiley InterScience
電子レファレンス資料	<ul style="list-style-type: none"> • Access Science • CREDO reference formerly Xrefer • Oxford English Dictionary • Oxford Reference Online • Oxford Islamic Studies Online

EconLit と Ovid を使用するには、レファレンスカウンターにて DiLibrary の ID、パスワードとは別の専用 ID・パスワードを取得する必要がある。Ovid は同時アクセス可能者数 6、SciFinder は 1 であり、SwetsWise は大学キャンパス内での利用しかできない、といっ

た制限があるものの、実に多種多様な情報源にアクセスできる点が非常に魅力的だった。また、図書館からのお知らせをホームページに掲載するだけでなく、twitter⁹⁾ や facebook¹⁰⁾ 経由でも提供している。

V ブルネイ工科大学図書館¹¹⁾

A. 図書館概要

ブルネイ工科大学図書館（以下 ITB 図書館）は、工業や経営管理に関する資料を中心に約 3 万点を所蔵している。米国議会図書館分類法（LCC）を採用していた。図書館員の数は 7 名、2012 年度にはよりスペースを拡大した新しい図書館が建設される予定である。UBD 図書館と同様、図書館を利用するには節度を持った服装であることが求められる。

B. 建物・設備

図書館はワンフロアかつ建物内の一室、とちんまりとしていたが、ソファや書棚のデザイン、植物の配置やカウンターまわりの装飾等、細かなところまで気を配り、居心地の良い空間を提供しようとしていることが随所からうかがえた。

図書館内のレイアウトを図 6 に示した。

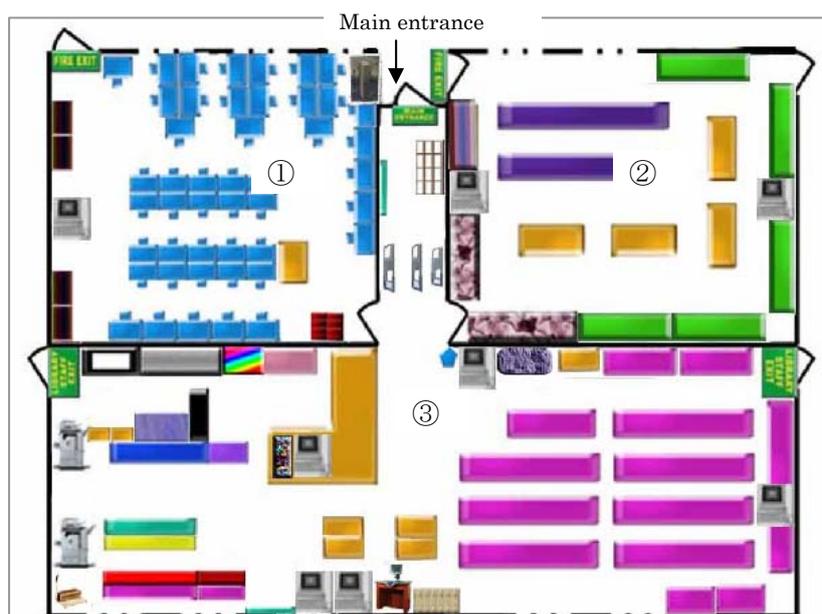


図 6 ITB 図書館レイアウト¹¹⁾

図中に①、②、③と記した通り、ITB 図書館は主に 3 つの部屋で構成されている。メインエントランス（Main entrance）近くの①の部屋は Quiet study area と呼ばれ、個人用机と椅子が約 30 台備えられており、学生が集中して資料閲覧やレポート執筆に励めるような空間となっていた。（図 7）。ビデオ、レコード等の視聴覚資料を閲覧するための再生機器と専用の席もこの部屋にあった。



図 7 Quiet study area

②の部屋には 4 グループが利用できるグループディスカッションスペースのほか、レファレンス資料、さらに新着およびバックナンバーを配架した雑誌コーナーがあった。日本では見慣れない雑誌タイトルの数々は、表紙を眺めているだけでも大変面白かった。

③は 3 つの中で最も広い、図書館のメインとなる部屋だった（図 8）。貸出可能な資料（Lending collection）のほか、新聞、視聴覚資料、ITB の出版物、過去の ITB 試験問題、学生の執筆論文等もあった。質問受付や貸出手続きを行うカウンターがあるのもこの部屋だった。



図 8 図書館のメインとなる Lending collection room

C. 電子資料の提供

ITB 図書館では、2008 年 4 月に eRIS (The Electronic Resources and Information Services) と呼ばれる電子化事業が、教育省先導のもとに開始された。これは、ITB 図書館が所蔵する公文書や記録文書、ITB の発行物を保存・保護するために電子化する事業である。電子化された資料は、ITB に所属する学生・教職員であればオンラインで全文を閲覧することができる。現在ますますのコンテンツ充実を目指しているということであった。

eRIS 開始と同時期に、図書館ではオンラインデータベースの購入も始めた。UBD 図書館ほど数は多くはないが Ebrary のような一般的なものから、工学、コンピュータ、技術関係の資料にアクセスできる ACM Digital Library や American Society of Mechanical Engineers (ASME)、Digital Engineering Library まで購入しているということだった。さらに、UBD 図書館が購入している EBSCO host は、コンソーシアム JALIAN (Joint Academic Library Network) のメンバーであれば共有利用ができる。JALIAN はブルネイ国内の 7 つの図書館で構成され、ITB 図書館もその一員である。そのため、ITB キャンパス内であれば EBSCO host の利用も可能であるということだった。これらのデータベースにアクセスできるコンピュータが図書館内の各部屋すべてに備え付けられていた。

VI 総括

多様な電子情報源、居心地のよい空間の提供、チャットによるレファレンス、といった充実したサービスのほか、図書館入館のためのドレスコード、他宗教の本には利用に制限がある等、日本にはないイスラム教国ならではの図書館規則や文化が非常に興味深かった。

一方で、特別に案内していただいた、図書館員の方々が日々の業務に励む事務室の雰囲気は日本と変わらなかった。日本から離れたブルネイに、私と同じように図書館で働いている方々がいるということ、彼らとお互いの図書館について話し、驚いたり共感したり笑い合ったりしながら時間を共有できたことが嬉しかった。こうした出会い、そして日本にいながらにしては決して知り得なかった、ブルネイの大学図書館の実態を自分の目と肌で感じられたこと、が今回の見学における何よりの収穫であった。

謝辞

仲介役として事前に訪問交渉を行い、当日滞りなく見学ができるようお取り計らいくださった Freme Travel Services の戸田布由子氏、笑顔で歓迎してくださったブルネイ・ダルサラーム大学図書館とブルネイ工科大学図書館の皆様、そして特に丁寧なご説明と温かいご対応をしてくださった Merhane Mohamed Salleh 氏、Hajah Pusparaini binti Haji Thani 氏、Haji Abdul Hafidz bin Haji Ali Hassan 氏に心から感謝申し上げます。

参考資料

- 1) 社団法人日本ブルネイ友好協会 (Japan Brunei Friendship Association)
http://www.jbfa.or.jp/brunei_gaiyou.html, (accessed 2011-10-11).
- 2) 国際機関日本アセアンセンター (ASEAN-JAPAN CENTRE)
<http://www.asean.or.jp/ja/asean/known/country/brunei/>, (accessed 2011-10-11).

- 3) 芝田征二. 国立ブルネイ・ダルサラーム大学 (UBD) における英語を媒介とする教育の現状と歴史的背景. 立命館国際研究. 2009, vol. 21, no. 3, p. 45-63.
- 4) 堀田泰司. “第 5 節ブルネイ・ダルサラーム (Brunei Darussalam)” . ACTS (ASEAN Credit Transfer System) と各国の単位の互換に関する調査研究 (平成 21 年度文部科学省先導的の大学改革推進経費による委託研究報告書) . 広島大学, 2010, p. 127-136
- 5) Muhammad Shariff, Tahira Haji. Library and information science education in Brunei Darussalam: the needs and prospects. Malaysia Journal of Library & Information Science. 2003, vol. 8, no. 2, p. 19-25.
- 6) Directory of Library Services, Library Universiti Brunei Darussalam 2009
<http://www.ubd.edu.bn/library/Directory%20of%20Library%20Services%2009.pdf>,
(accessed 2011-10-11).
- 7) Library Orientation 2010/2011 by The UBD Library
http://www.youtube.com/watch?v=C-BUY_FrimM, (accessed 2011-10-11).
- 8) Digital Library of Universiti Brunei Darussalam
http://library.ubd.edu.bn/_layouts/Authentication/Home.aspx?ReturnUrl=%2f_layouts%2fAuthenticate.aspx%3fSource%3d%252Fdefault%252Easpx&Source=%2Fdefault%2Easpx (accessed 2011-10-11).
- 9) UBD Library
<http://mobile.twitter.com/UBDLibrary> (accessed 2011-10-11)
- 10) Library@UBD
<http://www.facebook.com/pages/LibraryUBD/61067186745> (accessed 2011-10-11)
- 11) Institut Teknologi Brunei Library
<http://www.itb.edu.bn/ITB%20Library/index.htm>, (accessed 2011-10-11)